

三条市租税教育推進協議会長賞

税金の大切さ

三条市立下田中学校 三年 大塚 夢莉

おおつか ゆうり

私の家の近くには、地域の子どもたちが普段から使用している公園があります。私も弟の遊びに付き合つて使用することが、しばしばあります。公園の他にも図書館、橋、学校、消防署、市役所など、税金によつて建てられているものが多くあります。このように周りを見ていると、税金によつて市民の暮らしが充実していることがよく分かります。

私は、今まで税金がどんどん上がっていくことについて不満を持つっていました。地震などの自然災害によつて、ただでさえ物価が上がつているのに、それに加えて消費税を払わないといけないなんてと考えていました。そこで、税金について調べてみたところ、あることが分かりました。それは、約二十八年前までは、今 の税金の半分だったということです。税金が上がつた理由として、主に高齢化による社会保障費の増加、少子化による労働人口の減少などがあるそうです。その中でも、災害やパンデミックによる臨時の支出が二〇二〇年頃から多くあつたらしいです。新型コロナウイルス対策や能登半島地震では、市民から得た税金によつて、医療体制の強化や避難所の整備が行われました。その結果、人々の命や生活を守ることができた一方で、市の財政には大きな負担が残りました。

私は、このような出来事を通して税金の大切さを強く感じました。普段の生活では税金を支払うことが当たり前になつていて、その使い道を深く考えることは少なかつたようになります。しかし、社会全体が困難に直面したとき、税金によつて支えられる制度や仕組みがあるからこそ、私たちは安心して暮らしていくのだと分かりました。

一方で、税金は無限にあるわけではなく、支出が増えるほど将来への負担も大きくなります。だからこそ、使い道を慎重に考え、限られた財源を効率よく分配することが求められます。例えば、高齢化社会に対応した医療や介護への支援、子どもや若者への教育投資など、将来を支える分野に力を入れることが重要だと思ひます。

また、私たち市民も「税金は自分たちの暮らしを守るために使われている」という意識を持ち、関心を寄せる必要があります。単に「取られるもの」という考えではなく、「社会をより良くするために、自分も参加している」と捉えることで、税の役割を前向きに受け止められるはずです。私は将来、大人になり、税金を納める立場になつたとき、この学びを忘れないで、社会の一員として責任を果たしたいと思います。そのときには、自分の納めた税金が誰かを支え、次の世代の安心につながるのだと誇りを持てるような社会であつてほしいと願います。そして、その思いを実現するために、今から税について正しく学び、考え続けていきたいです。